

教育センター通信

第6号(通算 133号)

令和7年10月31日

三条市教育委員会

教育センター発行

ほど 火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ



三条学園 令和7年9月8日(月)
6年生中学校体験

「困った子」は「困った状況に置かれている子」

学校教育課 指導主事 田辺 俊勝

最近、SNSのある動画に気持ちが癒され、ついつい笑顔になっています。その動画は、重度の知的障がいに伴う自閉症の女子中学生の日常や頑張り、家族の姿が映し出されているものです。「この子、幸せそうだなあ。」「この家族すてきななあ。」と思っていたところ、その生徒のお母さんが著書を出版したので、早速読んでみました。著書では、保護者としての思いや葛藤がポジティブにたくさん書かれている中、次のような文章がありました。

つらかったのは、お迎えに行くたびに「これができなかったです」と伝えてくる先生がいたこと。できない報告ばかりされると、気持ちがどんどん落ち込みました。「分かりました、練習します」と先生に言いますが、すぐにできるようにはなりません。半年も1年もかかるかもしれません。報告されるたび、打ちのめされて帰ってきました。

(出典 蓬郷由希絵 「どうにかなるっちゃ 知的障がいのある自閉症児ゆいなの母の記録」
株式会社KADOKAWA 2025.9.18)

子どもが何かできないときに、一番困っているのは誰でしょうか。それは、子ども自身のはずです。周りの大人が「あの子は困った子だね。」で終わってしまっているのは、その先はありません。「困った状況に置かれている。そのような状況を周りがつくっている。」と捉え、指導や支援の改善を積極的に行っていくことが大切です。保護者の思いに寄り添うとともに、子どもができる喜びを存分に味わい、「学校は楽しい。」という思いを積み重ねていけるように、子どものできない要因や背景等をみんなで探りながら、適切な課題設定やできる状況づくり、働き掛けの工夫などに努めていきましょう。

第 65 回 三条市児童・生徒科学研究発表交歓会

10月2日

10月2日(木)、中央公民館とまちやまを会場にして、第65回三条市児童・生徒科学研究発表交歓会を行いました。開会式会場の中央公民館大ホールには、小・中・義務教育学校合わせて142名、指導者や参観の保護者も含めると300名を超える参加者が一堂に会しました。

開会式では高橋教育長から、乾電池を発明した長岡市出身の屋井先蔵の紹介のあと、「三条から新潟、そして日本から世界へと活躍する科学者、世界を幸せにする科学者を目指してほしい」と挨拶がありました。

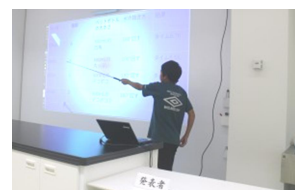
発表は125作品、中学年7部会、高学年5部会、中学校4部会に分かれて行いました。発表者は、この発表交歓会を目指して、暑い夏休みに観察や実験を繰り返してきた理科好きの子どもたちです。実験がうまくいかず苦労したことや友達や家族と一緒に研究を楽しんだこと、初めて分かったことがあって感動したことなど、どの発表にも一人一人の思いがこもっていました。また、他の発表に刺激を受けた子どもも多く、どの部会でも活発な意見交換が行われました。

【熱気あふれる開会式】



【発表者の感想】

- ・3回目の参加であり緊張しなかったけど、自分なりに上手に発表できてよかった。来年も発表したい。
- ・発表する前はとても緊張してうまくできるか心配だったけど、みんなが温かい目で見守ってくれて発表しやすかったし、いい思い出になった。
- ・とても時間をかけた研究や難しそうな研究がたくさんあり、来年の自由研究や私生活にも生かしていきたい。
- ・生活に使えるそうだったり好きなことから生み出したりする発表が多かったので、自分も大好きな動物のことを調べたいと思った。
- ・身の回りのことから疑問をもって研究して、上手にまとめて発表していたのすごかった。
- ・みんなが大変な実験をされていてすごかった。一人一人まとめ方や考え方にも個性が出ていて他の人の意見も聞けてとてもためになった。

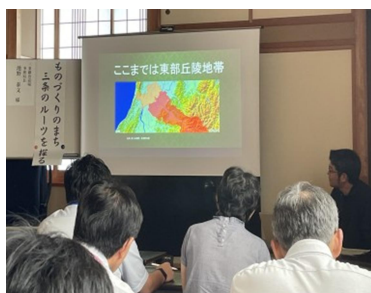


【分かりやすい発表】

第5回・第6回三条学講座

第5回「歴史講座2（ものづくりのまち三条のルーツを探る）」

9月17日(水)15名の参加で実施しました。三条鍛冶道場事務局長の池野 泰文 様からは、三条鍛冶の成り立ちや三条金物の変遷などについて講義をいただきました。その後、下田郷資料館に移動しました。生涯学習課文化財係の勝山 百合 様、田村 浩司 様から、石器を使った武器や火焰型土器などの展示物の説明をいただき、下田地区に伝わる逸話などについてもお話いただきました。



三条鍛冶や三条金物の講義



展示物の見学

第6回「金物の話講座（三条刃物について）」

9月24日(水)18名の参加で実施しました。伝統工芸士の日野浦 司 様と三条鍛冶道場事務局長の池野 泰文 様との対談形式で、三条刃物について海外製品との違いや歴史を踏まえたお話をいただきました。その後、体験場に場所を移し、日本の刃物製品の特長でもある、硬い鋼と柔らかい鉄を貼り合わせる「鍛接(たんせつ)」という技を日野浦 様から実演していただきました。



三条刃物の講義



「鍛接」の実演

学園紹介

三条おおじま学園

9月30日(火)に「おおじまブラボーDay」を実施しました。小学生と中学生、地域の方や保護者が一緒になって奉仕活動を行い、地域のよさを再確認したり、それぞれのつながりを感じたりする活動です。天気にも恵まれ、和やかな雰囲気の中で活動ができました。

須頃小学校では、はじめにグループの仲間づくりのめあてを決め、絆を深める交流活動をしました。後半の活動では、5・6年生が先導して地域の清掃活動に出かけました。夢中になってゴミ拾いをする小学生に「車が来るから、こっちにおいで。」と声をかけたり、土で汚れた荷物を持ってあげたり、中学生の優しい姿がありました。子ども達は、ゴミの少なさを「須頃地区のよさ」として感じていました。保護者の方も一緒に清掃活動をしていただきました。「協力する姿が微笑ましいですね。一緒に活動できてよかったです。」という感想をいただきました。

大島小学校では、小学生、中学生、地域の方と一緒に春先に咲く球根を植えました。桜の木の強い根っこに苦戦している低学年の姿を見た中学生が、「掘ってあげるよ。」と、進んで力を貸してくれました。大島小職員は、中学校に進学して、体も心もさらに成長を続ける卒業生の姿をうれしく感じました。参加された地域の方からは、「子どもたちと一緒に活動できてうれしかった。春に咲く花が楽しみ。」といったように、活動に対して肯定的な感想を複数いただきました。



縦割りグループで地域清掃活動
須頃小学校周辺



球根を植える活動
大島小学校周辺

さかえ学園

9月29日(月)、「小6授業体験・部活動体験」を栄中学校で実施しました。小学6年生の栄中央小・栄北小・大面小の児童が一堂に会し、授業体験、部活動体験を行いました。授業体験では、「先生が丁寧に教えてくれて、少し中学校の勉強に自信がもてた。」と、中学校の授業に対する肯定的なイメージをもつことができました。部活動体験では、「中学生とコミュニケーションがとれ、部活動のイメージをもつことができました。」との肯定的意見が多くみられました。この体験を通して、中学生は自分たちで活動し、個や集団を向上させていく部活動の良さを小学生に伝えることができました。また、事後アンケートでも小学生は、中学校入学後の授業や・部活動に対する期待や見通しをもつことのできるよい機会となりました。



授業体験



部活動体験

大崎学園

9月20日（土）に行われた大崎学園後期課程体育祭。最大の特徴は、前期生が後期生へ応援メッセージを送る場面があることです。春の前期課程体育祭では、後期生からの応援メッセージにパワーをもらいました。前期生1～6年生が、時間差でグラウンドまで来て、クラスごとに応援メッセージを放送し、競技中に間近で声援を送ります。後期生のそれぞれの軍は、自分の気持ちをさらに盛り上げて、練習の何倍もの熱量をもって競技に臨みました。後期生は、後輩たちがあこがれる、そんな姿を見せようと120%の力で競技や応援に取り組んでいました。



大玉運び



体育祭交流 前期生の応援

オーダーメイド訪問

10月27日時点で、約120件のオーダーメイド訪問を行い、今年度中にあと約20件の要請をいただいています。この数は例年に比べて、およそ2倍の数となっています。今年度、Step1研修の内容を見直し、複数回学校を訪問して授業づくり支援を行うようになったことが大きな要因となっています。

例年、研究授業公開及び協議会の要請を多くいただきますが、今年度は例年と異なり、次のような要請を多くいただきました。

- ・ Step1研修やその他研修の授業公開に向けた指導案検討の要請
- ・ 「研修計画」の共通理解のための、校内研修での講師の要請
- ・ 全国学力学習状況調査の分析方法についての講師の要請

10月をピークに年末に向けて要請件数は減少する傾向にありますが、今年度の研修の振り返りや次年度に向けた校内研修など、今からでも気軽に御相談ください。数多くの要請をお待ちしております。



校内研修での指導主事による講義



公開授業に向けた事前の授業参観